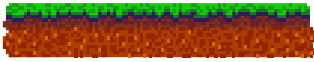




My stories in St.Paul

2023年度入学 セレクティブコース R.K

進学先：明星大学人文学部日本文化学科 一般選抜型



STEP 1

勉強から逃げ続けた10年



小・中学校の9年間、私は勉強から逃げ続け、大好きなゲームの世界に没頭していました。「勉強なんてつまらない」——そう自分に言い聞かせていたのは、ゲームのように思い通りにいかない現実から目を逸らしたかったからです。当時の私は、ひどい泣き虫でした。授業中に指名されても、問題の意図すらわからず頭が真っ白になる。クラスメイトの視線が集まり、ひねり出した答えを否定され、誰かがクスッと笑う。そのすべてが自分を否定する刃に感じられ、気づけば涙が溢れていました。「人前が出るのが怖い、勉強もできない、泣き虫」。そんな自分が大嫌いで、何度も無力感に苛まれました。高校入学後もその殻を破れず、1年生の数学の試験中に、お腹が痛いと言いついて逃げ出したこともありました。進級すら危うい私を、数学の先生と担任の先生は諦めずに支えてくれました。

STEP 2

覚悟を決めた「志望校」との出会い

転機は高校2年生の後半、どうしても行きたいと思える大学に出会ったことでした。当時の成績では到底届かないレベルでしたが、担任の先生は「本気なら頑張ってみろ」と背中を押してくれました。3年生になり、私の意識は劇的に変わりました。それまで「勉強なんて意味がない」と逃げていた自分を振り返り、「やってもいないことを意味がないと決めつけるのはダサい」と思うようになったのです。



STEP 3

クラス下位からの躍進、手に入れた「4.1」

まずは勉強への態度を根本から改めました。これまでは「どうせわからない」と寝ていた授業も、一言も漏らさず聞き、板書には自分なりの工夫を凝らしました。青ペンを使って記憶効率を上げ、複雑な内容は図解して易化するなど、自分に合った「攻略法」を模索したのです。結果はすぐに数字となって現れました。学年下位が定位置だった定期テストの順位は、3年生の1学期には11位、期末には1桁、そして2学期にはついに学年4位まで登り詰めました。2.9だった評定平均は4.1まで跳ね上がり、模試の偏差値も60を超える教科が出てきました。

STEP 4

「戦う土俵」に立てる自分へ

受験勉強を通して得た最大の収穫は、成績以上に「自分への自信」でした。周囲の評価が変わり、それ以上に自分自身が「やればできる」と確信できたことが何より嬉しかったのです。最終的に、第一志望の大学には惜しくも届きませんでした。しかし、かつての「試験から逃げ出した臆病者」だった私はもういません。結果を恐れず、自分の力で自信を掴み取り、真っ向から勝負の土俵に上がることができました。聖パウロでの3年間は、私に「挑戦する楽しさ」を教えてくださいました。この1年の泥臭い努力は、これからの人生を支える揺るぎない土台になると確信しています。

